

介護・医療事業の経営者・幹部のみなさまへ 2015・25年を見据えた介護事業経営フォーラムのご案内
「在宅事業者が取り組む『住まい』サービス - 地域包括ケアが求める介護事業者の使命」

介護と医療のダブル改定後の第2四半期が終わりましたが みなさまの事業はどのように推移なさっているのでしょうか。

厚生労働省は「**高齢者の住まいの整備**」を「高齢者が地域で自立した生活を営めるよう 医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスが切れ目なく提供される『**地域包括ケアシステム**』の実現に向けた取組を進める」ための介護保険法改正の一大ポイントとして提示しました。

とりわけ国土交通省と足並みをそろえて創設された「**サービス付き高齢者向け住宅**」(サ高住)は 補助金・税制優遇・制度融資の要件緩和 さらに介護報酬改定で新設された「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の提供などに後押しされ「今後10年間で60万戸」の計画達成は間違いないといわれるほど 急速に整備が進んでいます。

一方「**老人ホーム成長軌道に 高齢化進み施設追いつかず 入居金元手に投資加速**」(2012年9月24日付日本経済新聞・夕刊)という報道が示すように 有料老人ホームを中心に事業展開する各社も増収増益が目立っています。

しかし「**なぜいま この立地で この面積 このサービス の住まいをつくったのか!?**」と首をかしげたくなる「住まい系サービス」も少なくありません。

そこで本フォーラムでは 明確なコンセプトと実行力で事業を展開されているお二人の異なるタイプの経営者を講師・シンポジストとしてお招きしました。

香取幹氏は 看護婦家政婦紹介所をルーツに持つ株式会社やさしい手を在宅介護大手に成長させました。厚生労働省の「24時間地域巡回型訪問サービスのあり方検討会」委員も務められ 今年度からは「サ高住」と「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」を含む「巡回型訪問介護」普及の**トップランナー**として活躍されています。



大石ひとみ氏は 人口9千人あまりの長野の村で「なぜ畳の上で死なせてくれないんだ」という利用者の声に動かされ公務員を辞め起業。その後 **たった一人の利用者のために有料老人ホームも開設。年齢や障害の垣根を越えて事業を展開**されています。さらには本年 撤退した地元スーパーを購入して **介護・住まいそして地域活性のための拠点づくり**に着手しはじめていらっしゃいます。

- 「猫も杓子もサ高住」の落とし穴に気づいていますか!?
- 「住宅事業」と「介護事業」を勘違いしていませんか!?
- 「ニーズ」(顔の見える顧客)と「ドメイン」(戦う領域)を把握していますか!?

などなど 土地のオーナーや建設・不動産会社ではなく **在宅介護・医療の専門家であるみなさまの羅針盤**となるべく議論を行ってまいります。

ご質問・ご不明な点がございましたら どうぞお気軽にお問い合わせください。



株式会社ウエルビー
代表取締役 青木正人



追伸 「不確かな時代だからこそ新しいうねりを起こす必要がある」とお考えの事業経営者・幹部のみなさまのご参加を 心からお待ち申し上げております。なお 先着順で お申込みを受け付けさせていただきます。定員に達しました際には あしからず ご容赦をお願い申し上げます。

